

⑨首都圏中央連絡自動車道 4車線化事業の一部完成について (久喜白岡JCT～幸手IC、境古河IC～坂東IC)

受賞機関 東日本高速道路株式会社 関東支社 さいたま工事事務所
国土交通省 関東地方整備局 北首都国道事務所

キーワード 首都圏中央連絡自動車道、4車線化、
施工工程の短縮、慢性的な渋滞の解消

全建賞審査委員会の評価ポイント

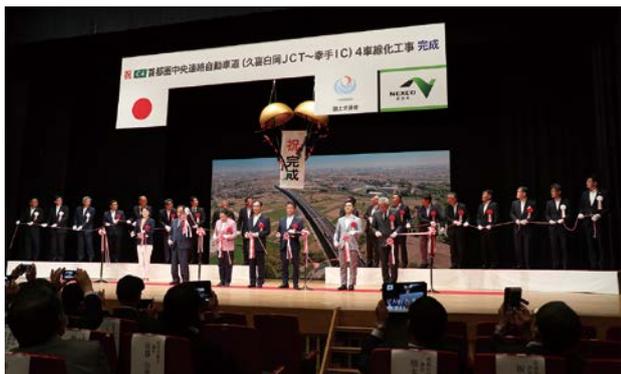
首都圏中央連絡自動車道の4車線化事業。4車線化事業を進めるに当たり、床板のプレキャスト化の新技术による工期短縮した点や、車線運用を切り替えながら施工することで交通規制の影響を最小限にした点が評価された。

1. はじめに

首都圏中央連絡自動車道（以下「圏央道」という。）久喜白岡JCT～大栄JCT間（約92.2km）の4車線化事業は、暫定2車線で開通した圏央道において発生していた慢性的な渋滞の解消等を目的として平成30年3月に事業化され、令和4年度から順次令和8年度までの開通を目標に進めているところである。このうち久喜白岡JCT～幸手IC間（約8.5km）及び境古河IC～坂東IC間（約9.1km）の4車線化が、令和5年3月31日に完成を迎えた。

2. 事業の概要

さいたま工事事務所においては、久喜白岡JCT～坂東IC間（約28.7km）を担当し、国土交通省北首都国道事務所と施工を分担し進めているところである。このうち久喜白岡JCT～幸手IC間、境古河IC～坂東IC間は両機関での綿密な工程調整等の他、沿線自治体や地権者のご協力のもと、借地による施工ヤードの確保により、事業化から約5年という比較的短期間での完成が可能となった。



久喜白岡JCT～幸手IC完成式典（5月28日）の様子

久喜白岡JCT～幸手IC間は全線橋梁区間であり、上部工工事ではプレキャスト床版、合成床版を採用することで、施工工程の短縮や安定した品質を確保することができた。

舗装工事においては中央分離帯構築等のため、運用車線を夜間通行止め等で切替えながら施工を行ったが、短時間作業で車線切替が可能な場合は先頭固定規制にて実

施し、極力利用者への影響が少なくなるように施工を進めた。

3. 事業の成果

4車線化完成により、車線絞り込み部で発生していた慢性的な渋滞の解消が確認されている。開通後1か月の速報では久喜白岡JCT～幸手IC間において昨年4月に発生した外回り8回、内回り45回の渋滞は、今年4月には解消されている。併せて安定走行が可能となることでCO₂排出量も削減され、環境保全効果も発揮されている。その他、通行止め回数減少による円滑な交通の確保や、中央分離帯を突破し反対車線に飛び出すような重大事故の減少といった効果も見込まれているところである。



4. おわりに

圏央道4車線化事業のその他区間においても令和8年度までの順次開通に向け鋭意工事を推進し、早期の効果発現を目指していく。